

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	七尾市立小丸山小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	3	3	3	2	18	27
児童数	75	68	95	82	90	86	4	500	

研究の概要

1. 研究主題

自ら問題を解決できる子をめざして
わかって楽しい授業づくり

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生～6年生の算数
 ・児童の理解の状況に差が出やすく，個に応じたきめ細かな指導で目に見える効果が現れやすい教科であるため。
 ・2年生から6年生に算数の少人数指導を実施するため。（1年生はT・A授業）

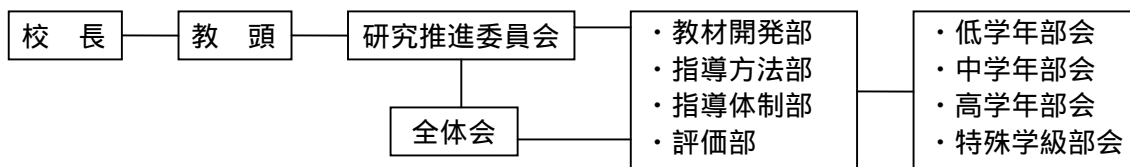
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら問題を解決できる子をめざして - わかって楽しい授業づくり - 研究の見通し 個に応じた指導や少人数指導を取り入れることによって学力の向上をはかる。</p> <p>研究の内容・方法 発展的な学習や補充的な学習を工夫する。 ・数学的な思考を伸ばすような問題に挑戦したり，基礎・基本の定着をはかる学習をしたりして，わかる楽しさを味わえる授業を構築する。 効果的な少人数授業のあり方を探る。 ・等質，習熟度別，課題別など，より効果的なグループ編成の仕方を考える。 ・子どもたちの多様な考えを引き出すことのできる教具を用意する。 子どもたちの指導に生かすことができる評価を工夫する。 ・評価基準を作成し，本時のねらいがはっきりした授業にする。 ・子どもたちが学び方を振り返ることができる自己評価の工夫をする。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 自ら問題を解決できる子をめざして - わかって楽しい授業づくり - 研究の見通し 教材開発，指導方法，指導体制，評価方法について工夫することで学力向上をはかる。</p> <p>研究の内容・方法 児童が楽しく意欲的に取り組める教材を開発する。 ・ゲーム・操作活動・体験活動などを取り入れて，子どもたちが興味・関心を持つ問題をつくる。 習熟度別少人数指導のあり方を探る。 評価を生かした授業を実践する。 ・評価が子どもの指導にどのように生かされたか 子どもの変容を追跡する。</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 自ら問題を解決できる子をめざしてーわかって楽しい授業づくりー 研究の見通し 教材開発，指導方法，指導体制，評価方法について工夫することで学力向上をはかる。</p> <p>研究の内容・方法 発展的な学習，補充的な学習に効果的な教材開発をする。 効果的な習熟度別少人数指導のあり方を探る。 個人の評価のカルテを作り，年間を通じて指導に生かすとともに，次年度以降の指導にも生かす。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



全員が「確かな学力」の向上のための実践研究に携わることができるように，昨年までの授業研究部を教材開発部など4つの部に分け，全員がいずれかの部に所属し研究を進める。また，低・中・高・特学部会を設け，教材研究や毎日の授業実践，研究授業など児童の発達段階を考慮して部会ごとに協力しながら行うことができるようにする。

さらに，全員の共通理解のもとで研究を進めることができるように，研究推進委員会と全体会を月に1～2回開催する。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・「算数が好きになった」「よくわかるようになった」「勉強が楽しかった」という児童が増えた。（計算確かめテストは，5月の平均88点が1月は94点に）
- ・個に応じた学習には，習熟度別少人数授業が効果的であることがはっきりしてきた。
- ・教科書の問題を参考にしながら，習熟度別のそれぞれのコースに合う課題（教材）をつくることができた。
- ・児童の生活場面から問題となる導入素材を用意したので，児童の学習意欲の喚起や持続の面で有効であった。
- ・算数的活動が有効に働き，児童が自分なりの新しい解決方法を見つけることができた。
- ・児童の理解や思考を助ける教具やヒントカードを工夫することができた。
- ・ヒントコーナーを設置することにより，個に応じた操作活動ができた。
- ・適切に評価することにより児童のつまずきが明確になり，指導の重点がはっきりしてきた。
- ・児童が自己評価することにより，学習態度や問題解決の仕方（学び方）について考えるようになった。
- ・特設したスキルタイムに，その時々に必要な補充指導をすることができた。
- ・算数の教科の系統性を生かして学力テストの問題を作ったので，児童がどの学年のど

2. 今後の課題

- ・「わかって楽しい授業」の特に「楽しい授業」とはどんな授業かを明らかにし、「楽しい授業」を構築できるように授業改善をする。
- ・習熟度別少人数授業でのそれぞれのコースの児童に合ったより適切な課題を設定する。

- ・児童が自ら問題を設定する場面をつくる。
- ・個の支援のためのヒントカードや様々な教具を与えるタイミングを考える。
- ・個に応じた支援の仕方をより充実させる。
- ・1学級2分割・2学級3分割・3学級4分割など、様々な学習形態を試行することにより、児童に効果的な学習形態を探る。
- ・教師の評価や児童の自己評価だけでなく、児童の相互評価にも取り組む。
- ・不十分な学習について年間を通した補充指導と次の学年での補充指導を続けるために、計算以外の領域についても個人の評価カルテを作成する。
- ・形成的評価の改善を図る。特に、関心・意欲・態度の評価方法を工夫する。

学力等把握のための学校としての取組

- ・評価基準を作成し、児童一人一人が評価基準をクリアしたか、確認する。
- ・計算確かめテストを行う。
実施時期... 5月, 1月
目的... 計算力を把握し指導に生かすとともに、個人の計算力の変容を見る。
内容... 前年度に学習した計算問題(5月, 1月)
今年度に学習した計算問題(1月)
- ・算数確かめテストを行う。
実施時期... 9月
目的... 計算力以外の算数の力を把握し指導に生かすとともに、学校全体の算数の力の変容を見る。
内容... 前年度と今年度の1学期に学習した知識・理解、計算以外の表現・処理、数学的な考え方を見る問題

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 平成15年11月28日(13:50~17:00)中間研究発表会を開催した。
- * 中間研究発表会の研究紀要を近隣の小中学校に配布する。
- * 今後の予定としては、平成16年10月に公開研究発表会を開催する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|-----------------------------|-------------------|-------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | ・14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
・13~18学級
25学級以上 | 7~12学級
19~24学級 | | |
| 【指導体制】 | ・少人数指導
一部教科担任制 | T・Tによる指導
・その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | ・算数
図画工作 | 理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ・有 | 無 | | |